14. 九月五日頃迄に安東及撫順、本溪湖附近の部隊行軍により北陵収容所に入る。

15. 九月十日軍綱に在りたる一般市民（奉天）約六千名北陵収容所に収容せらる。

16. 九月十四日より作業大隊の編成（一大隊千名）及輸送を開始し同日より毎日三箇列車宛奉天より北上す。一箇列車は約千五百名にして一箇大隊の裝備は個人裝備の外自動貨車二、輜重車五、馬匹六なり。

七、其の他の狀況

1. 在留邦人、開拓團の狀況

軍は八月十日轉進命令を受領すると共に在留邦人も後送せしむべき指示に接し、直ちに在鄭家屯滿洲國興安總省連絡參事官及當時防衛對策等の爲集合しありたる興安西省各旗參事官に對し軍司令部に集合を求め一般情況を説明し、十二日中に在留邦人及開拓團

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

員を鐵道沿線に集合せしめて後退する爲の處置をとらん事を要望し、列車の配當は軍司令部に於て增當し且奥地等にて傳達遲延せるものは集結遲れたる場合に於ても軍用列車に便乘せしむる旨附加し迅速なる處置を執らしむると共に、各兵團にも連絡して此の趣旨を徹底す。四洮線沿線附近の居留民は十二日引揚列車により或は軍用列車により通化方面に後退せるも、奥地の居留民は連絡遲延の爲列車によるを得ず、各機關の判斷に基き徒歩により後退せるも、興安附近居留民は徒歩により後退中蘇軍に遭遇し多數の犧牲者を生ぜるもの、如く、興安西省奥地の居留民は徒歩により奉天附近に後退す。

軍人軍屬の家族は軍司令部の家族は四平及鄭家屯に、第百七師團の家族は阿爾山、五叉溝附近に在りしが、前線の家族は戰鬪開始と共に一般居留民と共に列車により鐵道遮斷の直前に後退し得たり。軍司令部の家族は鄭家屯附近居留民と共に通化に後退し停駐

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

後撫順に移動す。

2. 滿洲國政府後方の狀況

開戰後戰況逼迫に伴ひ諸所に騷亂起りしと以前より國民政府と氣脈を通じありし滿系官吏は全く活動せず保身にのみ迫はれ完全に無政府狀態となる。日系官吏特に蒙古地帶に在りし參事官等は情報の傳達、遊擊活動、居留民の指導に身を挺して活動せり。

3. 滿洲國軍及警察の狀況

滿洲國軍は開戰前情勢の急迫に伴ひ逐次其の兵種を制限し大部を工兵、輜重兵に改編し、其の裝備も弱体化し兵器は日本軍に移管しつゝありしが、開戰と共に逃亡者續出し爲に日系軍官の多數は殺害さるゝに至れり。在興安蒙古軍官學校の如きは豫め騷亂を計畫しありしものゝ如く、九日興安の爆擊せらるゝや直ちに騷亂して興安軍司令官を逮捕逃亡す。十五日停戰となるや日系軍官は急遽其の職を滿系軍官と交代す。南滿に於ては相當險惡なる空氣あ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

りて特に錦州にありては極めて情勢悪化せるも滿軍高射砲部隊の逃亡ありしのみにして叛亂は見られず。警察官も滿系は開戦と共に保身の爲逃亡せる者多かりしも、日系警察官は相當活躍し、特に治安の維持、蘇軍の情報提供等に最后迄活躍せり。

滿人、鮮人、露人等の狀況

滿人

情勢の緊迫に伴ひ物資の供出、人員の徴用等により民心は完全に離反し徴用の身代り、供出損害の共同負担等行はれ且國民政府に通じて身の安全を圖らんとするもの多く民心の動向は警戒を要するものありしが、八月十五日停戦の報傳るや奉天城内は忽ちにして全戸晴天白日旗を掲げ、十七日頃より滿軍の逃亡叛亂と共に漸次治安狀態不良となり日本人財産の掠奪を開始し暴行事件蔓起するも尚日本軍駐存しありたる間は治安を保持しありたり。十九日蘇軍入城し日本軍の兵器を暴民に與ふるに及び俄然暴動化し、北

0132

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

陵附近に於ては日本軍殘存部隊と對峙し小銃等を以て攻擊し來り手榴彈等を以て之を擊退する等の如き狀況を呈す。

奉天驛前附近は最も治安不良にして二十一日よりは避難民及通行人は凡て掠奪暴行を受け又日本軍空兵舍、官舍及日本人立退家屋は一物も殘さず掠奪を受く。平素日本人上官に對し反感を有せる滿人警察官は蘇軍入城と共に日本人警察官を逮捕し梅間を行ふ。日本軍の奉天北方に撤退するに及び連絡の爲の通信線は全て滿人の切斷する處となり又奉天、撫順間には匪賊出沒するに至る。日本人に好意を有せる一部滿人中には日本人を保護し或は便宜を與えたるものありしも極めて僅少なり。

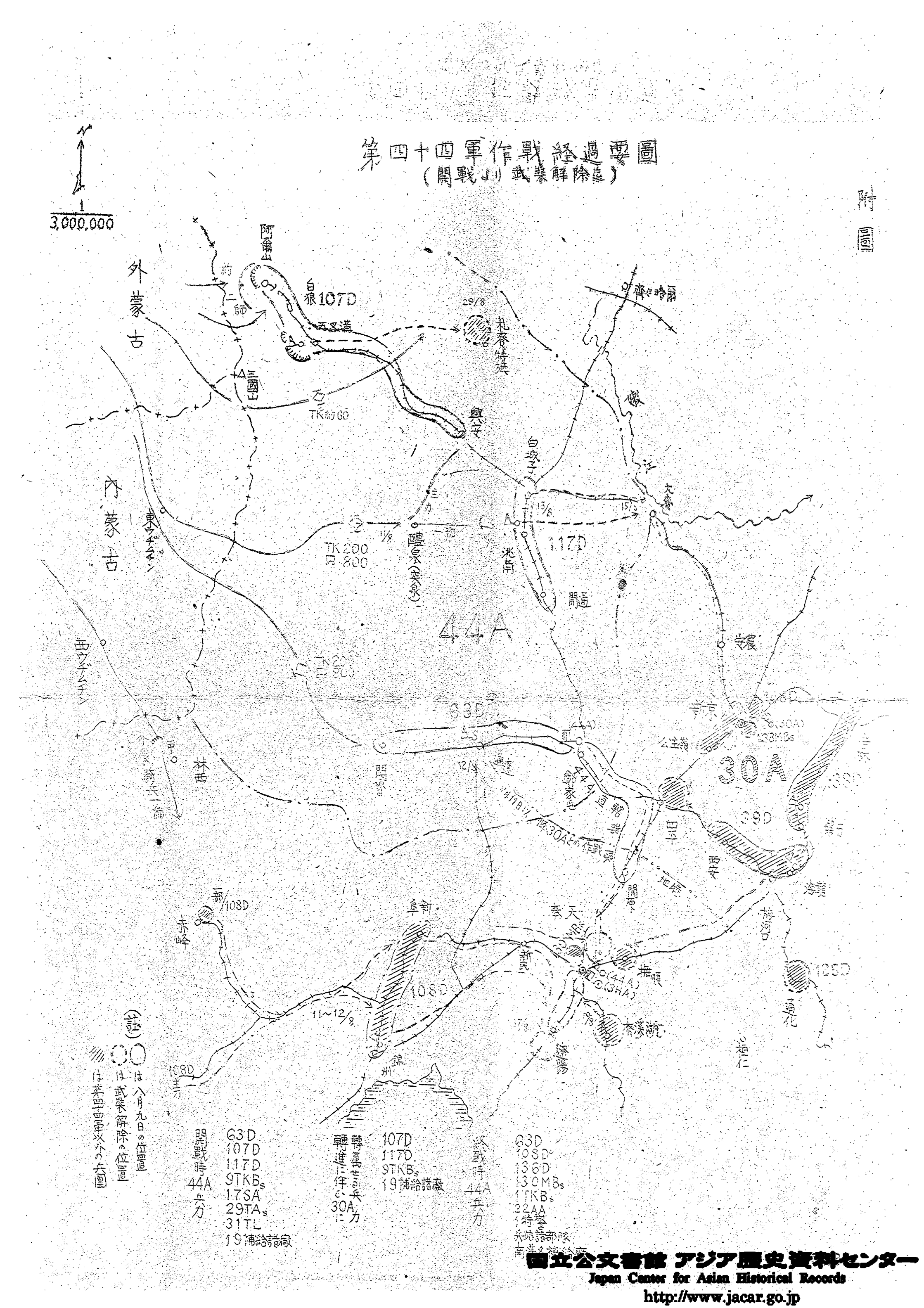
朝鮮人

停戰當初は滿人の報復を恐れありしも朝鮮國旗を掲げ、蘇軍入城するや蘇軍掠奪の先導者となり日本人より掠奪せり。又蘇軍の爲諜者となり密告する者多かりき。

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

附圖

第四十四軍作戰經過要圖
（開戰より武裝解除迄）



国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

露人

全般戰局の不利に伴ひ在滿白系露人は蘇聯の工作により漸次蘇聯國籍を取得せるものを生じ、且諜報活動も活潑化するに至る。蘇軍入城と共に日本軍側に協力しありし者の一部は天津、上海に逃亡せるも、大部分は逮捕せられ白系露人事務局員は全部銃殺せらる。又白系の一部は蘇軍の密偵となり積極的に蘇軍に協力せるも、結局大部の白系露人は蘇領に護送せられ叛逆人として殆んど處刑せられたるもの、如し。

第三節　第六十三師團の狀況

一、北支より滿洲への轉進

イ、要旨

63Dは司令部を北京に置き北支那方面軍直轄の下に在石門の獨立旅團を併せ指揮して河北省熱京道、保定道及北部順德道地區の警備に任じありしが、昭和二十年初頭夫々北京及保定に於て新に編成

0135

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

せし獨立警備隊に其の警備を移讓し同年五月北京及保定地區に集結し轉進準備及訓練の後同年六月上旬企圖を秘匿しつゝ滿洲國遼地區に轉進す。

2. 轉進準備

(イ) 警備の移讓

師團は昭和十八年七月北京に於て編成以來所謂分散配置に依り警備に任しありしが、昭和二十年三月師團の增任の下に夫々北京及保定に於て編成せし獨立警備隊の編成完結するや同年四月上旬師團隸下部隊の警備の配置を概ね其の儘兩隊に移讓し當初若干期間重複警備の後隸下部隊を北京及保定地區に集結す。

但し師團は依然警備任務を有し兩警備隊は師團の指揮下に入らしめられあり。

(ロ) 師團の編制改正

師團は所謂警備師團にして、歩兵二旅團（旅團は獨立歩兵大隊四）工兵隊一及輜重隊一並に野戰病院一より成りしを以て野戰

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

師團としては不備の點多く特に砲兵力及機動力に欠くる所あり。

依つて先つ砲兵一隊（野砲四門）の編成を命ぜられ更に各隊の行李を編成す

(ハ)師團の教育訓練

師團は編成以來分散配置に依り警備任務に服しありしを以て野戰師團とは日常の戰闘樣式に著しき相違あり。歩兵各級隊長の如きは編成以來一回も其の部下全員を集合掌握せしことなき狀況にあり。依つて師團は獨立警備隊に固定警備配置を移讓するや隷下部隊を集結し兩歩兵旅團長掌握下各々警備地區内の活潑なる機動討伐を實施せしめ以て警備任務の積極的遂行と共に特に此の間に於て各級指揮官の指揮能力の向上、各部隊の機動、戰闘等野戰的訓練を實施し更に師團司令部以下各特科隊も夫々活潑なる野戰訓練を實施す。

(ニ)滿洲への轉進實施

0137

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭和二十年六月上旬師團は北支に於ける警備任務を解かれ滿洲國通遼地區に轉進を命せられ國境通過時を以て關東軍の戰鬪序列に入らしめらる。本轉進に方りては特に企圖の秘匿に努め準備時期より鐵道輸送實施に至る迄万全を期し能く所期の目的を遂し順調に轉進を實施し六月中旬新駐地に轉進を完了す。

二、滿洲轉進より蘇聯參戰迄の狀況

1、要旨

師團は滿洲轉進に依り第四十四軍の隷下に入り、司令部を通遼に置き鄭家屯～通遼鐵道線沿線の主要地（住民地）打通線北部及開魯に駐屯し直ちに訓練に邁進す

次て新作戰任務を受領し師團は之に基き作戰準備に浪頭す。

右準備は有ゆる困難を克服して鋭意之か完整に努め旭當の進捗を見たる際蘇聯の參戰を迎えたり。

2、移駐後の配置

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

師團司令部　通遼

66B　主力を以て鄭家屯、一部を以て同地以西鄭家屯ー通遼線の沿線主要住民地

67B　主力を以て通遼、一部を以て同地南方打通線沿線の主要住民地

爾餘の部隊　他歩兵一大隊を開魯に駐屯す

通遼附近及鄭家屯ー通遼線沿線住民地

3. 作戦準備の狀況

(イ) 師團の任務

六月下旬軍より爾後の作戦に對し命令あり師團の任務左の如し。

師團は主力を以て通遼附近、各一部を以て開魯、鄭家屯ー通遼線上の主要地、特に鄭家屯附近に陣地を占領し遊擊戰法に依り所在に敵の東進を擊碎す。

(ロ) 兵力部署

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

現駐屯配置を骨幹とせるものにして大なる變更なし。

(ハ)陣地構築

師團移駐後の新作戦任務に應ずる陣地の迅速なる完成は師團の夙に着意せる所にして居住設備の如きは眞に最少限に止め前述作戦任務を受領するや直ちに偵察、構築に着手せり。之か構築は所在の物料を以てする如く指示せられ軍より何等の補給を受けさりしを以て、一帯の沙漠地帯にして利用すへきもの無き師團は洞窟陣地の如き徹底せる工事は直ちに着手するに由なきも沙漠地の特性に鑑み先つ個人壕（たこ壺）を主体とするものに依り相當の強度の陣地を構築し爾後逐次之を強化を圖ることとせり

(ニ)資材の整備

兵器彈藥特に遊擊戦の爲の爆藥其の他の作戦資材は當初軍より補給なく教育訓練にも支障を來す狀況にありしも逐次之か整備

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

整備し得たり。

(ホ)其の他

豫想作戦に應ずる編制裝備の改善強化等逐次實施す。

4、教育訓練

教育訓練は岸川師團長の特に意を用ひて努力せし所にして、北支に於ける轉進準備以來夙に着手しありし所なるも將來の作戦任務明らかとなるや直ちに之に應ずる教育訓練に着手せり。

即ち遊擊戦の教育を主体とし幹部に對しては更に指揮能力の向上に着意せり。

之が爲處置せし事項左の如し。

(イ)吉林演習（關東軍に於て木下機動旅團をして實施せしめたる遊擊戦の演習）に參謀長を參加せしめ隷下の指導に當らしむ

(ロ)鐵道を利用しモーターカーを走行せしめ敵戦車、裝甲車の實速を出し之に對し肉攻を訓練す

0141

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

(ハ)師團長陣頭に立ち連日各部隊の訓練を視察するのみならず自ら之を指導す

(ニ)隷下各部隊は万難を排して連日訓練を實施する如く指導す

右の成果は着々之を擧げ得たり幸に師團は北支に於て共産軍匪の遊擊戰に相對し敵の逐年若心研究創意による日進月歩の同戰法に對抗しありし關係上、遊擊戰に就ては將兵を通し深刻に理解しありしを以て之が訓練も容易に成果を擧げ得たり。

5. 編制裝備

編制に就ては前述の如し。

裝備に就ては遊擊戰に應する裝備就中肉攻所要兵器資材（爆藥等を含む）の整備に努め隷聯の參戰迄には概ね所期の如く完了せり。

6. 戰力

(イ)一般的觀察

(ハ)は昭和十八年七月獨立混成第十五旅團を主体として改編せ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

し警備師團にして且編成以來直ちに分散配置に依り警備任務に服し共產軍匪に對し對遊擊戰に從事しありしを以て近代戰に應する編制特に裝備を有せず、砲兵力は臨時編成の野砲一隊（四門）に過きず、對戰車火器の如き皆無の狀況なれは其の戰力は一般野戰師團に比し遙かに及ばざるものと判斷しありたり。

加ふるに編成當時は幹部も相當優秀（獨立歩兵大隊長は現役大、中佐）なりしも滿洲轉進時に於ては著しく低下（同大隊長は特進の大尉級）しありて、師團の近代戰に應する戰力は標準師團の50%以下と思料す。

然れども軍の對蘇戰は徹底的に遊擊戰に終始せんとするものにして優秀なる指揮官の下、諸兵種の統合戰力を發揮し更に戰略戰術的運用の妙を以て勝を制せんとする正道の作戰に非すして最下級幹部以下の實施する函々の遊擊戰闘の綜合戰果に勝敗の決を求めんとし司令部の如きも一度戰闘の開始後は全員が各々

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

一遊擊戰闘員たらんとする原始的作戦なれば斯かる戦闘に於ては北支に於て連日連夜對遊擊戦に終始せし師團としては最も得意とする所にして其の戦力は本來の在滿兵團の追隨を許さゝるものありと思料す。

尚師團の志氣は能く高揚しありたり。即師團は北支より他に轉用せらるゝことを昭和二十年初頭に承知せし以來いづれ決戦正面に於て玉碎するものと覺悟しあり其の滿洲轉進も亦其の覺悟を以てし寸暇を惜んで次期作戦の準備教育訓練に邁進しありたるを以て其の志氣は十分に高揚せられたり。

(ロ)數量的觀察

a 師團は警備師團の編制に若干の野戦對應の改編を實施せしものにして總兵力は固有編制に應ずるものと殆んど差異なく北支に於ける損害の補充も亦行はれありて編制に應する完全なる定員を保有しありたり。

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

b. 兵器亦損耗少く編成當時より物低下せる程度なり。彈藥資材は轉進時には最初の會戰用のものをも保有しあらさりしも蘇聯參戰時には相當充實しありたり。

三、蘇聯參戰當時及開戰後の狀況

1. 師團は嘗に示達せられたる作戰計畫に基き當時諸準備を完了しあり。師團の正面に對する敵の進入明らかとなるに及ひ既定計畫に依り先つ最前線の開魯に在りし獨立歩兵第七十七大隊をして將に遊撃部隊として進發せしめんとする際十日後退の命に接す。

2. 師團は前述の如く蘇聯參戰後、日ならずして現配備を撤し奉天東、陵附近に陣地を占領して隣接兵團と共に奉天を守備すへき任務を受け、奉天に向ひ轉進す。

右移動は十二日午后より鐵道輸送に依り圓滑に實施せられ、最前線開魯の如きも敵の侵入に先たち離脱し得たり。但し居留民をも併せ後退する為相當困難を感したり。

77ABS は 新京地方の全滅也

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

3. 爾後逐次到着する部隊を以て陣地占領に着手し概ね師團半部を輸送せしとき停戰となる。

四 終戰時の狀況

1. 態勢

師團は前述の如く未だ敵に觸接することなく軍命令に依り奉天に後退し、約半部は東陵附近に陣地占預、他半部は鐵道輸送中なり。

2. 戰力

蘇聯參戰前に同し

3. 武裝解除の狀況

八月十九日蘇側軍使飛行機に依り奉天に到着。八月二十日師團長は「蘇軍軍司令官の到着を迎ふる爲飛行場に集合すへき」旨通を受け同樣集合せる在奉天の全將官と共に飛行機に依り拉致せらる。

師團は一地に集合の上武裝を解除せらる。

4. 爾後の推移

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

其の後師團全員は北陵收容所に收容せられ此處に滯在十月中旬に至り入蘇の爲輸送を開始す

此際尉官以下は全部作業大隊に編成し（大隊は1500名）佐官は同收容所に在りし他兵團等のものと合し將校大隊を編成し出發す。

但し第67旅團長橋場大佐は部下を思ひ自ら進んで作業大隊長となりて出發せり。師團は各作業大隊共佐官を以て隊長に充當せんとせしも、橋場大佐のみ出發し得たる外他は禁止せらる。

第四節　第百十七師團の狀況

第一、蘇聯參戰迄の狀況

1. 昭和二十年五月下旬師團は新鄉（北支）に於て滿洲洮南附近に轉進すべき命を受け六月中旬極秘裡に行動を開始し六月末日迄に概ね輸送を完了す。（當時尙歩兵二個大隊は老河口作戰に參加中なり）

2. 八月五日頃に於ける師團の態勢要圖第一の如し。

0147

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

3. 八月六日第二十四軍の作戰計畫及之に基く陣地構成計畫等を受領し之に基く師團の計畫を立案中にして八月十日部隊長會同に依り示達すべく準備中なりき。

第二 開戰より終戰時迄の狀況

1. 八月九日開戰と共に同地域に在る獨立速射砲第二十九大隊を師團の指揮下に入らしめらる。

2. 八月十日各部隊長を集合せしめ取敢えず陣地構築に關し命令す。

3. 同日體泉副縣長より「土民の言に依れば戰車數千台體泉方向に前進中」との情報を電話を以て通報し來りたるを以て、直ちに206大隊29TASを洮南西方約三〇粁附近に前進せしめ敵の前進を阻止せしむる如く處置す。

4. 十日午后電話に依り「第百十七師團は速かに新京に轉進し第三十軍の指揮下に入るべし」指揮轉移の時機は新京到着時とす、轉進の爲十二日夕より列車十二列車を配當す」の軍命令を受領し之

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

が準備をなす。

5. 八月十一日早朝開通地區より388大隊を洮南に轉進せしめ該地區を増強す

6. 十二日十八時頃軍より「列車なきを以て行軍に依り轉進せられ度し」との電話通報を受け、直ちに計畫を變更し別紙第二の如く二縱隊となりて轉進を開始す（洮南出發十三日零時）。

7. 左縱隊は極力列車を利用し十四日大體にその大部到着す。第八十七旅團長は電話に依り關東軍と交渉し師團主力の列車輸送を懇請せるものの如し。

8. 師團主力縱隊は十五日朝平安鎮（大體西方五粁）に到着、同地に於てLTE無線に依り停戦を知る。

9. 師團の行軍間敵機の行動活潑ならず。十三日黎明及十四日夜我が上空を旋回（照明彈投下）せるも攻撃を受けず（十三、十四日は雨又は曇）。

0149

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

10. 北支より滿洲に轉進中の歩兵二大隊は、天津附近に於て終戰を知れるものの如し。

第三、終戰後の狀況

1. 停戰を知ると共に師團主力を勉めて列車輸送すべく努力しその大部を新京地區に集結すべく處置す。

2. 師團長及幕僚其他所要の者は新京に先行し十六日早朝關東軍總司令部に到着し連絡の結果師團を公主嶺に集結するに決す。

3. 鐵道輸送に依り公主嶺に輸送を開始せるも蘇軍の進入に依り一部（204大A の一部、p一中、DTL）を新京に殘置せざるを得ざる狀況となり新京、公主嶺の兩地區に於て武裝解除せらる。

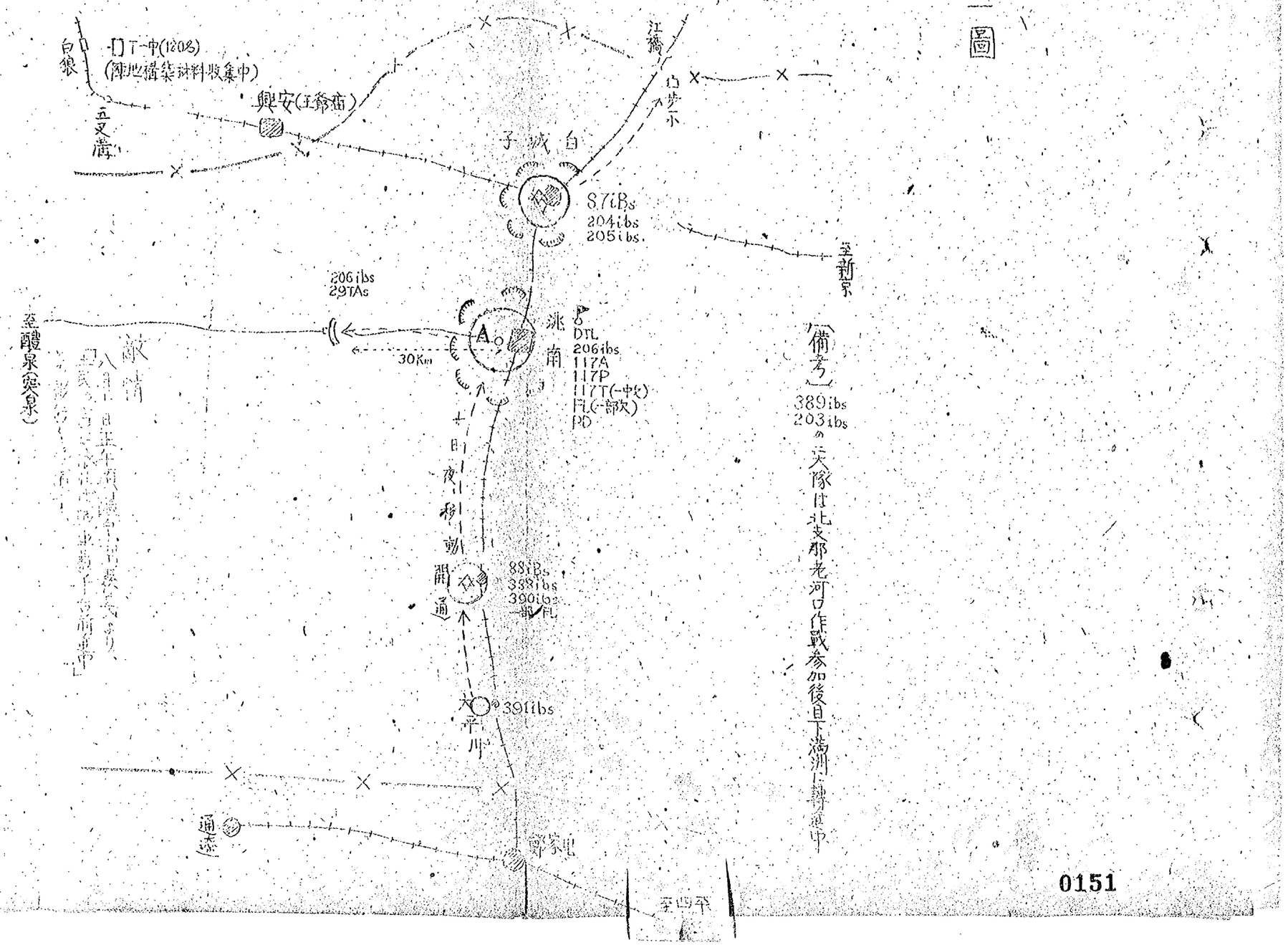
4. 北支より轉進中の歩兵二大隊は十八日新京に到着し十九日公主嶺に逆輸送せられ公主嶺に於て武裝解除せられたり。

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第一圖

第百十七師團態勢要圖

（自昭和二十年八月五日頃 至終戰參戰當時）



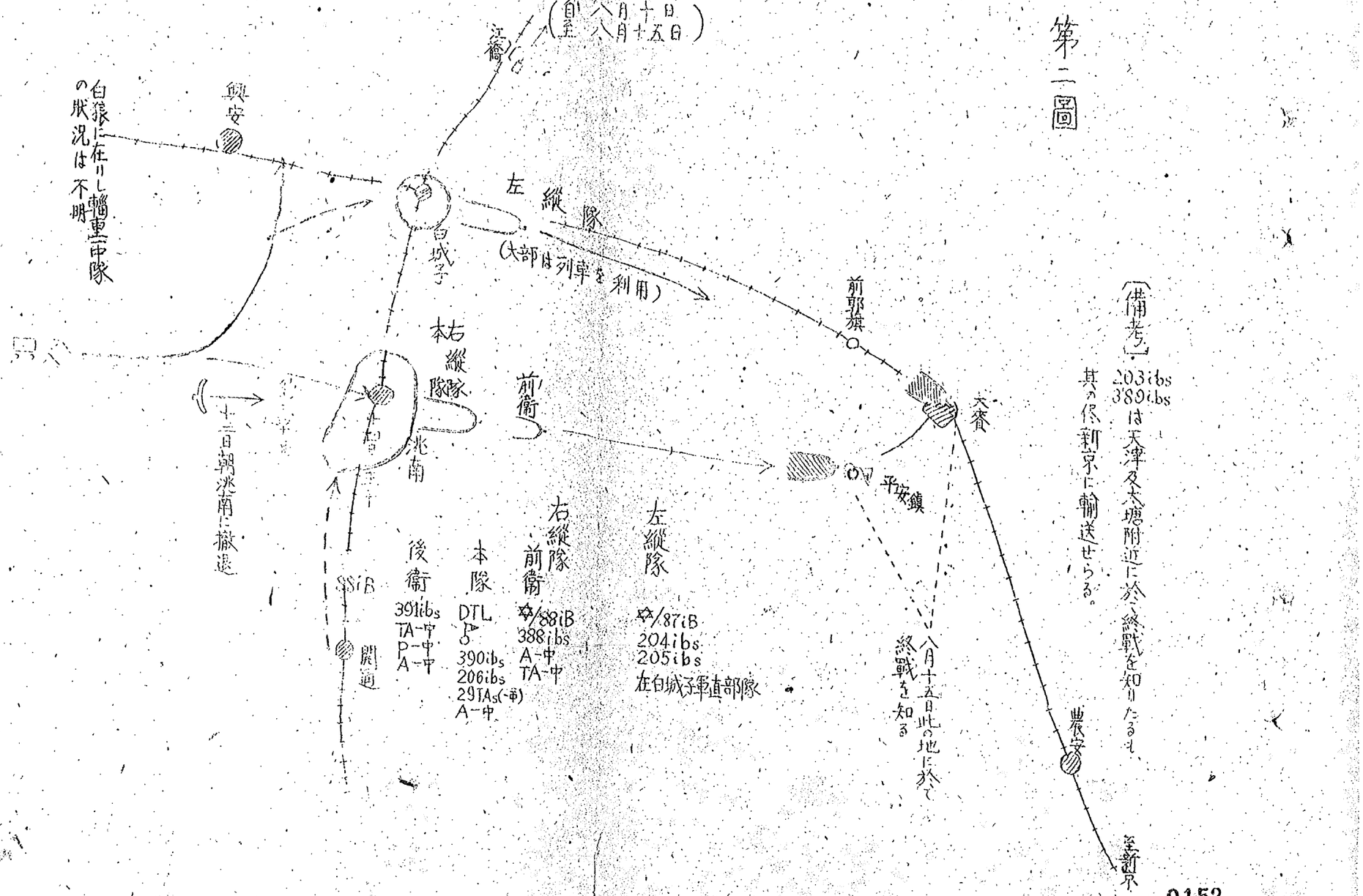
0151

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第百十七師團態勢要圖

（自八月十日 至八月十五日）

第二圖

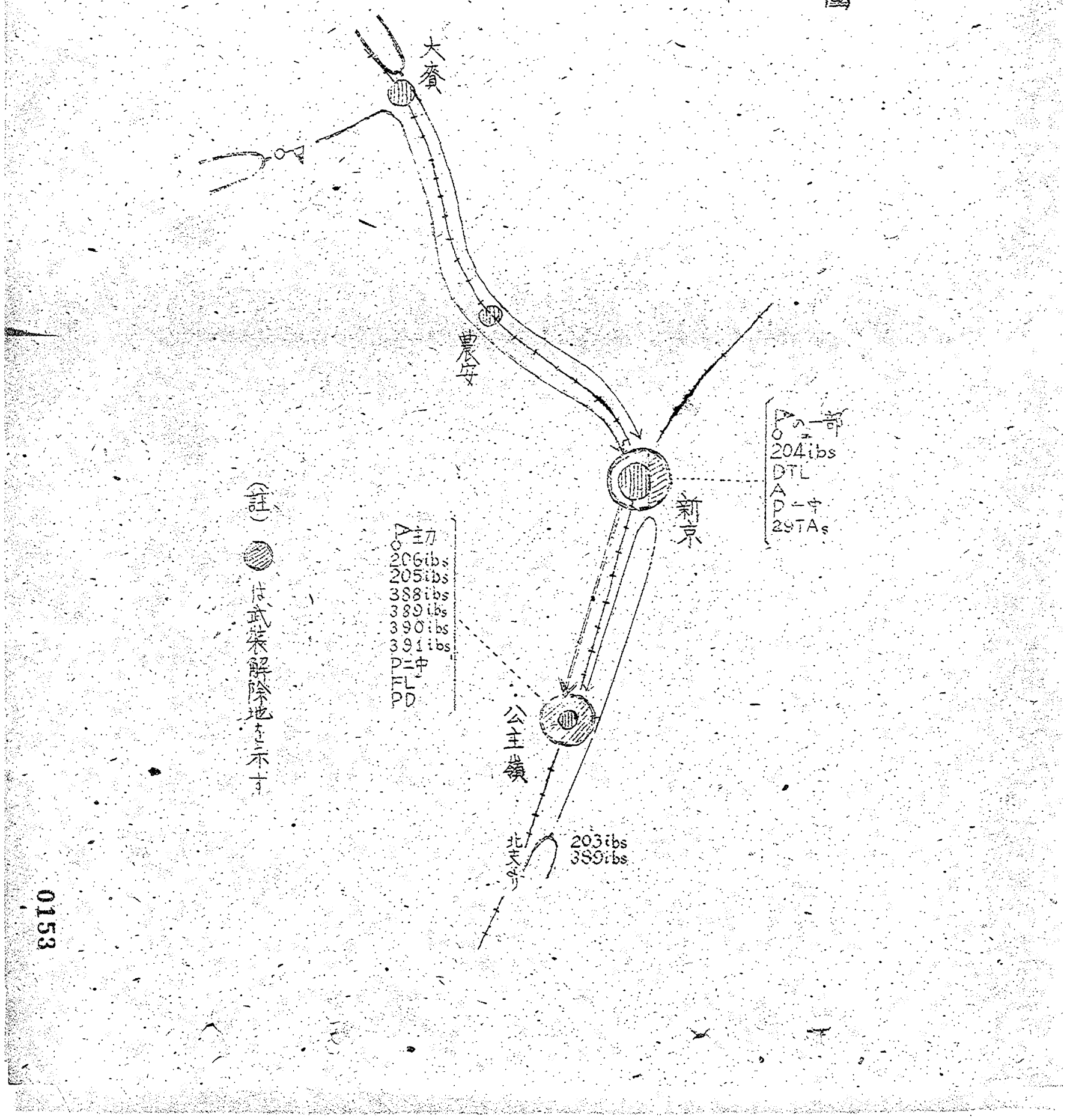


国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第三圖

第百十七師團行動要圖

（自八月十五日至武裝解除）



0153

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp